

目次

はじめに	1 頁	三、療養所退所者を対象とした調査	279 頁
1. 被害実態調査の概要		1. 「これだけは、言っておきたいこと」	
2. 被害実態調査の意義と特徴		2. 「望郷の想い」「逃走」について	
3. 被害実態の概要		3. 労務外出での苦勞	
4. 再発防止策		4. 退所後の困難	
一、国立療養所入所者を対象とした調査	19 頁	5. 転職や離職の経験	
(第1部)		6. 医療面の被害	
1. 入所前の発病にともなう被害		7. いまなお続く差別	
2. 強制入所の現実		8. 法廃止・国賠訴訟後の周囲の変化	
3. 療養所における治療について		9. 「生きることを支えたもの」	
4. 教育問題		10. 国等への要望	
5. 患者作業		四、私立療養所入所者を対象とした調査	333 頁
6. 優生政策		1. 優生政策について	
7. 外出・懲戒検束・望郷の想い		2. 患者作業について	
8. 自殺の見聞		3. 信仰との関わり	
9. 労務外出		4. その他	
10. 退所、再入所		五、家族を対象とした調査	339 頁
11. 家族の問題(家族被害、家族との断絶)		1. 差別を受ける 生活そのものが脅かされる	
12. 今後のことなど		2. 差別を受ける 学業を脅かされる	
二、国立療養所入所者を対象とした調査	165 頁	3. 差別を受ける 就業を脅かされる	
(第2部)		4. 差別を受ける 結婚/結婚生活が脅かされる	
1. 発病から収容まで		5. 「隠して生きていく」しんどさ	
2. 入所時の体験		6. 「差別を受けた」《家族》自身が、肉親を「差別する」	
3. 家族の受けた被害		7. 肉親を奪われ続ける	
4. 治療面での問題		Aさんのケース	
5. 療養所内の教育をめぐる問題		Bさんのケース	
6. 患者作業について		Cさんのケース	
7. 園内結婚と優生政策		Dさんのケース	
8. 外出制限について		Eさんのケース	
9. 懲戒検束について			
10. 自殺について			
11. 家族・親族との関係			
12. 退所生活の苦勞			
13. いまも残る偏見差別			
		付録	
		【国立療養所入所者被害実態調査 単純集計表】	
		【退所者被害実態調査 単純集計表】	
		【被害実態調査 調査票】	

凡例

1 , 本報告書には、付録として、『国立療養所入所者調査 単純集計表』、『療養所退所者調査 単純集計表』、『被害実態調査調査票』を添付しています。各付録の性格については本報告書「はじめに」のなかで説明しています。これらの付録を参照のうえ、本文をお読みください。

2 , 本文「一、国立療養所入所者を対象とした調査(第1部)」中、文中の「単純集計」は、上記の付録『国立療養所入所者調査 単純集計表』中の表番号を示しています。また本文中に挿入した図表は、分析の必要からとくにこの単純集計表等にもとづく複数項目の数値をクロス集計あるいは比較した等の結果です。処理にともない、単純集計表の有効値と数値が異なる場合がありますが、詳しくは本文中の図表に付記された註を参照してください。本文中のパーセント表記についても、統計的無効値(「無回答」)を除いて算出したものです。これらの数値については単純集計表を参照してください。

3 , 本文中には、『被害実態調査調査票』中の「聞き取り項目」欄から引用した文章(調査協力者の「語り」を調査員が記録したもの)が各所に引用されています。これらの引用文については、あくまで調査員が調査協力者本人の言葉をそのまま記録、あるいは内容を要約して記録したものであることをご理解のうえ、お読みください。引用文末には適宜、(生年)(最初の入所年)(性別)(最初の退所年)等を付記しています。文意によって明らかな場合はこの限りではありません。なお調査票に年が特定されていない場合等、“無記入”と記載する場合があります。

4 , 本文「二、国立療養所入所者を対象とした調査(第2部)」および「五、家族を対象とした調査」は、聞き取り調査で録音したテープのトランスクリプトをもとに構成されています。本報告書への掲載に際しては調査協力者の同意を得ていますが、トランスクリプトは調査協力者のライフヒストリーを顕著に示し、個人の同定につながりやすいため、引用等についてはこの点について十分ご配慮ください。

5 , 資料利用上制限のあるケースでは、得られた数値のみを利用し集計しています。これらのケースの「聞き取り項目」欄データおよびトランスクリプトは、本報告書には掲載されていません。